壮年期脳卒中患者の就労とセルフマネジメントの両立支援プログラムの開発

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部　人間看護学科　　講師　　片山　将宏
研究分野：脳卒中看護　リハビリテーション看護

わが国における脳卒中の死亡者は，年間10万人以上である．脳卒中患者は，脳卒中による死を免れたとしても，脳卒中の再発や後遺症，合併症と一生付き合っていかなければならない疾患である．壮年期脳卒中患者の場合，就労や家庭での重要な役割を担っている．特に就労が途絶えると，生活費を得る手段を失うことに繋がり，それまでの生活そのものが破綻する．そのため，壮年期脳卒中患者の就労とセルフマネジメントの両立支援が重要と考えるが，このような支援は報告されていない．その原因として，看護師が就労支援を役割と認識していないことが考えられた．そこで，看護師の認識の変容について明らかにする研究に取り組んでいる．

■壮年期脳卒中サバイバーのセルフマネジメントの実際

壮年期脳卒サバイバーのセルフマネジメントの実際を明らかにするため，9名の壮年期脳卒中サバイバー（以下，研究参加者）にインタビューを行った．研究参加者は，男性7名，女性2名．平均年齢53.1歳±6.2歳．罹患歴は，平均4.8年±3.4年，再発者はいなかった．9名中8名は復職，転職をしていた．セルフマネジメントの実際に関する6つのカテゴリーは，以下の通りであった．また，病前の生活を取り戻す様相が示唆された．

表　壮年期脳卒中患者のセルフマネジメントの実際

カテゴリ	サブカテゴリ
脳卒中後の身体を大切にする	生活習慣を見直す
	認知面の改善，維持に取り組む
	運動野言語リハビリを習慣化させる
脳卒中に伴う健康上の課題に対して医療従事者と協働する	セラピストから継続的にリハビリを受ける
	当事者が必要とする医療従事者とつながる
日常生活に社会資源を取り込む	自分に合ったリハビリの場を模索する
	出来ないことを道具に頼る
	家族の助けを借りる
	地域で暮らす人々の助けを借りる
	同じ当事者に相談する
脳卒中前の生活を大切にする	病前の生活を取り戻そうと工夫や努力をする
	病前の生活に近づけるための具体的な目標をもつ
人との対話や新しい人間関係を大切にする	人との対話や交流が嬉しい
	脳卒中後の新しい人間関係を構築する
好きなこと，新しい活動で気分転換する	新しい活動を始める
	気分転換できる好きな活動をする